

【特集】

写真で巡る聖地探訪 二〇二〇

柴田 長生

新型コロナウイルス感染拡大が未だ収束しない二〇二〇年のクリスマス。皆様はどのように迎えられたでしょうか。どこにも出かけていけない時だからこそ、イメージに導かれた旅に出てみるのも悪くありません。一九九四年の春、洗礼を受けて間もない現在93歳の母が、同じく洗礼を受けて間もない亡き父と共に、聖地巡礼の旅に参加しました。

私にとっては、「生きている間に行くことはできないだろう」と思っていた聖地。聖地は聖書の中に見いだす想像の風景でしかなかったのですが、父母が撮影してきた数多くの写真を見ながら、イメージとは異なった風景も含めて、様々なイメージが不思議な感じや独特のリアリティを伴って広がっていきました。

父母が撮影した聖地巡礼の写真が今手元にあります。これらの写真を紹介し、お生まれになられたイエス様に心をはせながら、皆様と共に聖地に向けての「イメージ旅」を歩んでみましょう。



1 シナイ山とモーセ

最初はシナイ山とモーセに関する写真です。父母はシナイ山のご来光を見るために山頂まで登山したそうです。山頂から見る日の出風景は、どの山であっても神々しいのですが、この岩山の連なりは私たちがちよつと知らない景色です。それにしてもこの山の風貌は何とも言えません。まして、主なる神によってモーセが招かれ、神から「十戒」を授かります。主なる神とその民との、最初の契約です。イエスの御降誕と何の関係もないようにも思われますが、全てはここから始まりました。モーセに導かれた民は、荒野をたどって約束の地へと向かいはじめます。

それにしても何という厳しい環境でしょうか。砂漠から荒野へ。シナイ山はその途上に忽然とそびえる岩山です。井戸やオアシスはとても貴重な、神からの賜物のような場所でした。



1 シナイ山



2 シナイ山 頂上の夜明け



4 モーセの井戸



5 モーセのオアシス



3 シナイ山麓の聖カタリナ修道院

2 イザヤ書と死海文書

私たちにとって、聖書に出てくる「荒れ野」というイメージは、ちよつと想像できない光景ですが、この写真のような場所だったのでしょいか。行けども行けども続く荒れ野。ヨシユアによる「エリコ陥落」の話は有名ですが、その後もずっと約束の地への旅は続きます。紀元前一〇〇〇年から九〇〇年頃は、ダビデ王・ソロモン王の時代で、民はエルサレムの都で繁栄を迎えていました。

おおよそ紀元前七〇〇年から五〇〇年頃、旧約聖書の一つの中心である「イザヤ書」が書かれます。この間にバビロン捕囚があり（紀元前五九七年から捕囚が始まる）、この頃から民の中に「救い主の到来」を待ち望む気持ちたちが次第に高まってきました。

クリスマスを迎えるに当たり、イザヤ書の9章や40章などを一度読んでみてください。「闇の中を歩んでいた民は、大いなる光を見た。暗闇の地に住んでいた者の上に、光が輝いた」イザヤ書9章の冒頭部分です。

イザヤ書に関しては、考古学的発見もありました。エリコ郊外のクムラン洞窟で、イザヤ書の写本が発見されました。学術的なことはさておき、旧約の世界とこのような荒涼とした風景と、その中で救い主到来への願いが重なってきます。

ところで、エリコはエルサレムから直線距離

で約25キロの近きですが、そこはこのような荒れ野に囲まれた城郭都市でした。エリコと言えば、ルカ福音書の「よきサマリア人のたとえ話」を思い浮かびます。周辺では盗賊なども出没しそうな・・・エリコから眺める丘の遠景の先が、エルサレムの都なのでしょう。



7 荒れ野の道



6 荒れ野



8 エリコ遠景



10 エリコ城壁(丘の向こうがエルサレム)



9 クムラン洞窟(死海文書発見洞窟)



11 ユダヤ・ガリラヤの地図

3 マリアと受胎告知
 時は更に五〇〇年以上流れて、民の希望がついに実現を迎えます。おとめマリアはナザレの大工（石切職人という説もあります）ヨセフの許嫁でしたが、聖霊によつて身ごもり、天使から受胎告知を受けます。
 まず、御降誕の頃の聖地の地図を見てみましょう。ナザレはガリラヤ地方の田舎町で、南のエルサレム・ベツレヘム・エリコなどとはかなり離れています。ナザレの街は、エリコなどとも異なり、緑のある土地です。
 ところで、聖地巡礼の写真には、「〇〇教会」というのがとても多く出てきます。聖書のエピソード毎に、その地に教会が建てられており、何だか変な感じですが、「鶏鳴教会」という教会があります、何を記念した教会かおわかりでしょうか（ペテロが3度、イエス様を「知らない」と言った後に、鶏が鳴きます）。
 ヨセフと身重のマリアは、人口調査の命令を受けて、この地からベツレヘムへと旅立ちます。



13 ナザレ・受胎告知教会



12 ナザレ

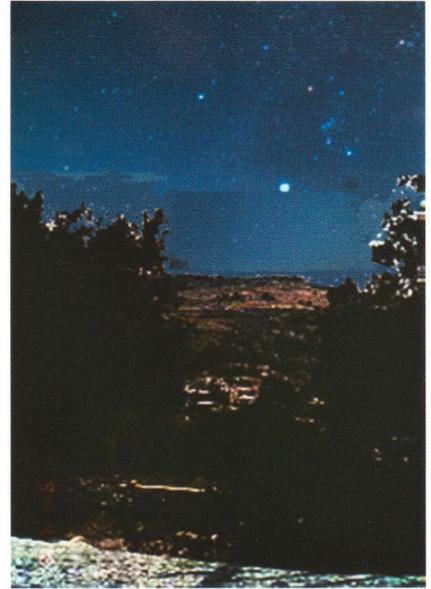


14 ベツレヘム 羊飼いの丘

4 ベツレヘム
 写真は「羊飼いの丘」を望むベツレヘムの遠景です。この写真は昼間に撮られたので、少し加工して夜の風景にしてみました。聖夜のイメージが少しは出ていますか。こんな静かな夜に、羊飼いの耳に天使の叫びが響き渡りました。
 御降誕の場所とされている所に、「降誕教会」が立てられています。教会内には「御降誕の場所」というのがあり、岩の洞窟のような場所です。馬小屋・飼葉桶という言葉から、厩舎のようなものを連想しますが、このような岩の洞穴だったといえます。本田哲郎神父様の「救い主は、最も低い身分で生まれられた」という言葉をかみしめたいと思います。



16 ベツレヘム・降誕教会



15 ベツレヘム(夜景想像)



18 御降誕の岩屋(馬小屋)



17 降誕教会内(降誕場所とされるどころ)

5 イエス様のホームグラウンド「ガリラヤ」

ガリラヤ地方は、いわば田舎で、ここで暮らしている民も「賤しき者」として見下されています。その中でも最も「低身に立つ」のがイエス様なのですが、ガリラヤ地方は、エルサレムと比べて、独特の伸びやかさや明るさがあるように思われます。ガリラヤは、イエス様のホームグラウンドです(御復活後のイエス様も、先にガリラヤに行き、弟子達を待っていてくださいます)。

ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた後、イエス様は福音をのべ伝えられます。ここでも、本田神父様の「小さくされた者への福音」という言葉を思い浮かべたいと思います。

ガリラヤ湖・ガリラヤの丘。こんな風景の中にイエス様がたえずまれ、みことばを話されます。ペテロゆかりの場所の写真もあります。彼は賤しい漁師でした。「山上の垂訓教会」「パンと魚の増加教会」「カペルナウムのシナゴーク跡」。聖書に出てくるエピソードの場所です。

クリスマスは、今生まれられたばかりの嬰兒のイエス様の時ですが、ガリラヤの風や土の中にたたずまれ、福音を述べ伝えられるイエス様の姿と重ねてみたいと思いました。その後イエス様は、福音の完成のためにエルサレムに向かわれます。



19 ヨルダン川(イエスの洗礼場所とされているところ)



25 山上の垂訓教会



21 ペテロ受洗教会



20 ガリラヤ湖と、ガリラヤの丘



22 ペテロ屋敷跡

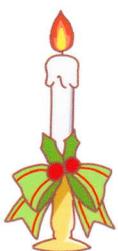


26 パンと魚の増加教会



23 ガリラヤのシナゴーク

迎えてください。
助にでもなればとても嬉しいです。よいクリスマスをお
とイエス様の御降誕に自由にこころをはせてみる事の一
る不自由な時だからこそ、この特集記事が、神の計らい
いかがあったでしょう。新型コロナウイルス蔓延によ



24 ガリラヤの丘遠景



27 エルサレム遠景